高畠町立小学校の再編に向けた意見交換会　記録

１　開催概要

日　時	令和８年１０月１日（木）午後７時～午後８時４０分
会　場	屋代地区公民館
対象・参加者	町民
参加人数	**参加者２０名**（事前申込１０名、当日申込１０名、欠席０名） 教育長、事務局４名
主催・事務局	高畠町教育委員会　教育総務課

２　意見交換の記録

（１）望ましい教育環境

意見交換の視点：これからの子どもたちに、どのような学校生活を送ってほしいか。

（２）大切にしてほしいこと

意見交換の視点：今の学校の良さでこれからも残してほしいこと、再編を考える上で心配なこと。

意見１	ゆくゆくは１校となることはやむを得ないと考えるが、屋代地区特有の教育、例えば「ひろすけ文庫」等は大事にして欲しい。１度で統合するのか、段階的に統合するのか。小中一貫校の優位性をもう少し聞かせて欲しい。
意見２	１学年２～３学級、１学級２５名前後が望ましいと思う。町の財政問題にも関わるので、１校にならざるをえないと思う。大きな学校であれば、教職員の切磋琢磨も図られると思う。教職員のバランスもとれる。
意見３	自分がＰＴＡを担っていた時に、中学校の統合があった。あまりにも人数が多いと、挫折する子も出てくるのではないかと思う。統合後の中学校で引きこもりやいじめの人数が増えているのではないか。大人数の中で、果たして子どもたちは心健やかに学校生活を送ることができるのか。子ども達のケアができるのであれば、１校でも良いと思う。
意見４	統合をするに当たり、学童をどうするのか不安である。地域ごとに設置するのか。今後、学童についての考えも共有して欲しい。
意見５	子どもを主体として考えて欲しい。子どもは地域にいるべきである。

意見６	○行政や財政的な理由ではなく、子どもを中心に据えて欲しい。○一気に進めるべきではない。○二井宿小学校は、学校の体裁をなさないのではないか。○私塾ではないので、一定な規模は必要である。○大規模校に馴染めない子どもに対し、十分な配慮をして欲しい。○専門性に対応するためにも統合はやむを得ないと思う。

（３）通学・施設・放課後

意見交換の視点：再編を考える上で必要な配慮（通学、学校施設、放課後児童クラブ等）。

（４）地域とのつながり

意見交換の視点：学校と家庭、地域とのつながりを、これからどのように築くとよいか。

意見１	地域の特色であるひろすけ文庫は大切にして欲しい。地産地消の自給野菜組合、地域の人とのコミュニケーション行事を継続して欲しい。小学校がなくなると、地域づくりは難しくなる。公民館を核とした取組みが大事となる。
意見２	小さいところからの合併も良いのではないか。地域との繋がり少なくなってきた。キレイな学習環境、新しい学校。統合の具体案を３つか４つ挙げていただき、その中から選択する。より良いことを積み重ねられれば良いと思う。
意見３	地域の皆がどのような関わりをもつか。あくまでも子どもを中心とするということを理解し、統合して欲しい。
意見４	今、中学校との関わりはほとんどない。より良い屋代地区を作るには、今以上に強いパワーが必要である。みんなで考えていきたい。
意見５	小学生は、朝の登校等の見守りがあるが、中学生との地域の繋がりはない。地域との関わりを大事に、地域との繋がりを残すようにして欲しい。

（５）その他

意見交換の視点：上記以外の意見、質問、要望等。

意見１	方針に記載されている意見は、そのとおりだと思う。国立社会保障・人口問題研究所が発出している 2050 年までの５年刻みの推移がでている。その数字を根拠に考えると、２校となれば１学年２クラス×２校となり、町全体で４クラスとなる。１校であれば、１学年３クラスとなる。どちらが子どものために良いのか検討した結果、２校が望ましいと考えた。

３　主な質問と事務局回答

質問・確認事項	事務局からの回答・説明

県内の市町村で、１～２校しか小学校がない自治体は、どの程度あるのか。	１つの市町村に１つの小学校といったところは、増えている。県内であれば、これから統合を予定しているところも含めれば、遊佐町、庄内町、河北町、川西町等が挙げられる。
基本方針の議会等への説明は。	令和８年１月の厚生文教常任委員会で説明し、今年度ホームページでも公開している。
小学生の数が半減すると説明のあった令和１４年度の中学生の数は。	令和１４年度の高畠中学校の生徒数は、４１０名と推計している。
方針の中に小中一貫校への言及があるが、視察等は行ったのか。	昨年度（令和７年度）、新庄市の義務教育学校について視察を行ってきた。

４　備考

なし